



## 大阪都構想ってどうやねん？



話題の大阪都構想、新聞報道等では政治的な局面ばかりが取りざたされていて、大阪都構想の中身や影響についてはあまり伝わっていないのではないのでしょうか。そこで今回は、自民党府議会議員団の副政調会長でもある栗原貴子議員（豊中市選出）に、これまでの議会や法定協議会での議論で明らかになった大阪都構想の中身について、「大阪都構想ってどうやねん？」と率直な質問をぶつけてみました。



### 大阪都構想が実現しなければ 二重行政は解消できないんでしょ？

我々自民党が議会で何度も質問して確認しましたが、大阪市をなくさなければ解消できない二重行政は、ひとつもありません。

### 二重行政を解消して、無駄のない効率的な 行政運営ができるんじゃないの？

二重行政解消よりもむしろ、大阪市内に五つ、あるいは七つの特別区を設置することによって、庁舎も議会もシステムもそれだけ必要になり、当然議員の数や職員数も増やさなければなりません。いわば、政令市のスケールメリットが活かせない、5重行政、7重行政となり、当然、大幅なコスト増になります。このことは9月の法定協議会や議会でも自民党が指摘し、新聞でも報道されましたが、人件費だけをとりあげても、特別区の設置によって、年間最大146億円、20年間で1690億円もの増加となります。

### 大阪都構想の実現によって、4000億円の 経済効果があるんじゃないの？

当初、知事、市長は都構想の実現により、4000億円の効果があると言っていました。けれども都構想のパッケージプランで示された効果額は1000億円。しかもその中身は、地下鉄民営化275億円や大阪府立大学や大阪市立大学の中期計画での節約額130億、あるいは人件費削減による節約額など、都構想とは全く関係のないものばかりです。しかも地下鉄民営化効果額275億円も実は間違いで、94億円も過大に計上されていたことが大阪市会で指摘されました。つまり、大阪都構想の実現で期待できる経済効果は全くないといっているでしょう。

### 二重行政の解消で浮いたお金を 大阪の成長に使えるんじゃないの？

昨年12月に示された財政シミュレーションでは、大阪府で浮いた財源（といっても4000億円とは程遠い、最大でも年間40億円程度ですが）はすべて特別区設置による赤字の補てんのために充てられることになっています。つまり、大阪の成長に使える財源はゼロということです。

### ということは、大阪都構想が実現しても、 大阪の経済は良くならないの？

大阪都という制度と大阪の経済に因果関係はありません。橋下市長も法定協議会で「制度を変えたからといって大阪の経済が良くなるとは思わない」と、大阪市があることが経済低迷の原因ではないことを認めています。

### でも、プランどおりに改革が実行できれば、 年間900億円の効果があるんでしょ？

都構想の効果額が最大になるのは15年～20年後です。「二人のリーダーが別々の方向を向いていたら、改革など実現できるわけがない」というのは橋下市長の言葉ですが、改革が実現するという20年間で、延べ25人～35人の特別区長や区議会が、大阪府や旧大阪市に押し付けられた改革プランを粛々と実行しなければならぬ責任も理由も、実行できるという担保も、全くありません。

### じゃあ、大阪都構想っていったい何なの？

大阪都構想の実現によって確実に起こることは、大阪市がなくなってしまうことと、特別区の設置によって膨大な費用がかかるということ。それ以外はすべて、「絵に描いた餅」以外の何物でもありません。

### 都構想の実現で、大阪府の財政には何か影響があるの？

都構想プランでは、大阪市が消滅する際に、大阪市の借金3.5兆円はすべて、大阪府が承継することになっています。おまけに大阪市が出資する公営企業、第三セクターも、市営地下鉄など儲かっているものは特別区に、不良債権てんこ盛りの赤字企業や債務超過団体はすべて大阪府が引き継ぐという内容です。すなわち都構想の実現により、10兆円近くの巨額の債務を抱える団体、新大阪府が誕生することになります。

### じゃあ大阪府民の暮らしにはどんな影響があるの？

今でも毎年800億円の収支不足があり、いわば「米びつの底が見えている」大阪府にとって、巨額の債務と、財政リスクと、特別区設置のためのコスト負担も押し付けられることで、財政のつじつまをあわせるために、府民サービスも今まで以上に厳しくカットされるであろうことは容易に想像できます。

### とりあえず一度やらせてみて、 あかんかったらまた元に戻したらええやん？

大都市局長も議会で答弁していますが、大阪市がなくなってしまうと、二度と元に戻すことはできません。特別区設置のために、庁舎や議会、人件費やシステム費など膨大なコストをかけて、そのつじつま合わせのために「効率化」と称して、府民サービスのカットを断行し、「こんなはずじゃなかったのに」と府民が、大阪市民が、数年後にどれほど後悔したとしても、なくなってしまった大阪は二度と元には戻せないのです。